

# 【初版】ICT活用スキル指導体系表(R5.1)

本指導体系表は、児童生徒のICTを活用した学びの経験を保障するものであり、指導する学年を固定するものではない。示された学年を柔軟に前後させてもよいが、各校を卒業するまでには、どこかで経験させ、児童生徒の実態に応じて繰り返し指導する。

項目	概要	小学校			中学校		
		低学年	中学年	高学年	1年生	2年生	3年生
端末やソフトウェアの基本的な操作・活用スキル	タイピング	●かな入力	●40文字/分（ローマ字） ●数式入力	●70文字/分（ローマ字）	●100文字/分（ローマ字）		
	カメラ	●写真・動画の撮影 ●QRコード読み込み ●スクリーンショット		●画面分割（スプリットビュー・オーバースライド）	●動画の編集（トリミング、Clips、iMovie）		
	オクリンク	●カードの提出 ●書込み（ペン） ●URLカードからWebサイトへアクセスする	●教材BOXへの保存・マイボードへの取込み	●カードをつなげプレゼンテーションをする			
	Web		●Web検索（キーワード）	●Webの画像をコピー&ペースト	●Web検索（画像検索）	●Web検索（and/or/not検索）	
	学習eポータル	●お知らせをよむ ●アンケートの回答 ●指定教材へアクセス					
	デジタル教科書			●指定ページを開く ●ペンで書き込んだ自分の考えをスクリーンショットし、オクリンクで共有する			
	M365 （Teams, Word, Excel, PowerPoint, Forms 等）				●共同編集（プレゼン資料の作成）[T,W,E,P]	●アンケートの作成・配布・結果の活用[F]	
	自分の合った端末設定	●遠隔・オンライン授業への参加（Teamsの活用）					
	●画面設定（明るさ・背景色）、●文字（大きさ・影）、●読み上げ、●入力方法*（キーボード・音声・フリック）						
プログラミング的思考	ICTを使わない活動を含め、自分が意図した活動により近づくように手順や順序、記号の組み合わせ等を工夫して、論理的に粘り強く考える力	問題の解決や表現活動の際には、手順があることを理解する	順次、分岐、反復を含むプログラムを作成することができる	順次、分岐、反復を含んだプログラムの作成を行い、目的に照らして作成したプログラムを評価・改善することができる	社会や生活の中から課題を見だし、その解決に向けてプログラムを作成するとともに、目的に照らして作成したプログラムを評価・改善することができる。		
情報モラル	情報社会や情報手段の特性の理解と、安全かつ適切に情報手段を使うことによって、よりよい情報社会を創ろうとする知識と態度	●写真を撮るときの注意 ●情報を発する責任 道①「ひつじかいのこども」 ●情報の伝え方 道②「おばあちゃんお元気ですか」	●インターネットのルール・マナー 道③「ちゃんと使えたのに」 ●メール・SNSの使い方 道④「交かんメール」	●メール・SNSの使い方 道⑤「メールの使い方」 ●情報社会 道⑤「情報社会に生きるわたしたち」 ●情報モラル 道⑥「カスミと携帯電話」 ●トラブル回避 道⑥「自分を守る」	●著作権・肖像権 道「使っても大丈夫？」	●インターネットのルール・マナー 道「ネット将棋」	●情報社会の未来 道「新しい人権」
		●ルールとマナー ●①パスワードの変更・管理 ●①指紋認証の設定	●ルールとマナー	●ルールとマナー ●⑥端末の初期化	●ルールとマナー ●①パスワードの変更・管理 ●①指紋認証の設定	●情報セキュリティ／情報モラル ●トラブルの回避と解決	●情報モラル 道「情報の技術」 道「消費者トラブルとその対策」